

大船渡林野火災現地説明会 議事メモ（※要約版）

作成：INDS

日 時：2025年3月7日（金）15:00～16:30

開催方法：オンライン（Zoom ウェビナー）

参加者：283人（最大／登壇者・運営除く）

共 催：NPO 法人おおふなと市民活動センター（CAVO）、いわて NPO 災害支援ネットワーク（INDS）

協 力：認定 NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）

1. 趣旨説明（INDS 葛巻）

- ・ 現在も火災は継続中で、被害の全容が見えない。避難者や生業への影響が深刻。
- ・ 避難所運営、ライフライン維持のための行政の取り組みが続いている状況。
- ・ 大船渡市内の団体の動きも見られる。そういった地元主体の動きの支援の検討も求めたい。
- ・ まだ災害が続いて流動的な状況でもある為、本日は現地団体の報告をもとに現状をお伝えする。

2. 被災地の状況と三者連携の報告

(1) 被災地の現状（NPO 法人おおふなと市民活動センター 菊池）

- ・ 3月7日、一部地域（赤崎の6地区）で避難解除が発表された。
- ・ 一部住民は帰宅可能となったが、山中では火がくすぶり続けている。
- ・ 今後の天候次第で延焼の可能性あり。全国の消防隊・警察が支援中。
- ・ 避難者は、自宅の被害状況を確認できないなど、不安な状況が続く。
- ・ ライフラインの復旧に時間がかかると避難生活が長期化。精神的・肉体的な疲労蓄積が懸念。

(2) 今回の災害対応のポイント（NPO 法人おおふなと市民活動センター 菊池）

- ・ 発災から8日経つが、まだ火がくすぶっており災害中。
- ・ まだ復旧・復興フェーズに入っていない。「発災0日目」の段階である。
- ・ 大船渡の力（3.11を経た地域力）がある。避難所にて住民主体の運営が機能。
- ・ 大船渡の中高校生がボランティアとして支援活動に積極的に参加。

(3) 災害 VC の動き（社会福祉法人大船渡市社会福祉協議会 伊藤）

- ・ 3月1日に大船渡市災害ボランティアセンターを開設。
- ・ ボランティア予備登録を受付中。現時点で、個人900名、団体60組が登録済み。
- ・ 今回、3.11の教訓と日々の積み上げが活き、市社協・JC・CAVOの三者連携による支援体制が機能。
- ・ 避難解除後のニーズ把握と支援方法の検討が課題。
- ・ 火災時の活動内容の検討と、適切なタイミングで全国からの支援を受け入れる仕組み作りが必要。

(4) 大船渡青年会議所の動き（一般社団法人 大船渡青年会議所（JC） 鎌田）

- ・ 被災地への物資提供・炊き出しを実施。
- ・ 今後の課題は、避難解除後の物資配分・管理や被災者の生活再建支援の為、長期的な支援策の検討。
- ・ 避難所以外の親族宅などで生活する人が増えており、孤立が懸念される。支援の仕組みを検討中。

3. 各支援団体の報告

(1) 地域経済・漁業支援等について（東北食べる通信 阿部）

- ・ 定置網倉庫が焼失。推定8億円、再建に1年程かかる被害。乗組員の雇用含めて影響大きい。
- ・ 例年3月15日頃からわかめの収穫が始まる。漁師から作業を始められないもどかしさの声を聞く。

- ・ 避難指示解除後、今の2倍3倍忙しくなる。避難による心労も重なり、漁師の体調が心配。
- ・ 日々ボランティアニーズ変わるが、綾里漁協ウェブサイトボランティア事前登録を開始。

▼綾里漁協オンライン (note)

https://note.com/limber_human6784

▼綾里漁協ボランティア事前登録開始 (note 記事)

https://note.com/limber_human6784/n/n68909e196ba9

(2) 炊き出し支援等について (一般社団法人大船渡地域戦略 志田)

- ・ 飲食業生活衛生同業組合 (大船渡支部)、食品調達のために寄付金を募り、炊き出し支援実施。
- ・ 綾里地区は外国人観光客にも人気 (みちのく潮風トレイルコース、綾里崎や綾里峠など)
- ・ この観光資源復活を目指し、今年度地域住民と観光地の復活を考えるコンソーシアム立上げを計画。
- ・ 中心市街地の商業エリアは被災していない。経済支援の観点からも歓迎。地元の消費活動に繋がる。
- ・ 被災した観光地の復旧・修復にも向け、現在寄附金募集中。

▼大船渡市山林火災に係る緊急支援のお願い (団体ホームページ)

<https://www.ofunato-ss.com/news/detail/20250227-fire>

(3) 子ども・避難者支援等について (NPO 法人おはなしころりん 江刺)

- ・ 避難所では物資は充実しているが、精神的な負担が大きい。
- ・ 避難所外で避難する被災者の支援が今後の課題。地域コミュニティの再生が必要。
- ・ 仮設住宅 (みなし含む)・公営住宅移行後も継続的な支援が必要。
- ・ 心の拠り所となる家を焼失した方へお渡しする義援金募金開始。責任をもって直接被災者へ届ける。

▼大船渡市赤崎町で発生した火災の募金活動を開始 (活動報告ブログ)

<https://www.ohanashikororin.org/20250302-4190/>

(4) 避難所のこどもの居場所等について (NPO 法人 SET 三井)

- ・ 隣市の陸前高田市を拠点に活動している団体。同じ気仙地区ということで支援開始。
- ・ 子育て世帯は親戚宅、車中泊などに避難しているようで、避難所には子育て世帯が少ない。
- ・ 認定 NPO 法人カタリバ等と協働し、子育て世帯が多い避難所等に子どもの居場所を3月3日開所。
- ・ 休校に伴い給食提供ストップ。学習支援場所へ食事提供支援等を実施。

(5) 災害支援の専門的視点等について (一般社団法人 OPEN JAPAN 肥田)

- ・ 3月1日より大船渡入り。3.11の教訓が活かされていると感じる。
- ・ 今回の災害は熱海の土石流に近い。シーズの方が多く裁けないことにならないように。
- ・ 課題は広範囲。家屋は火災以外にも海水散布による塩害の可能性、煤(すす)による被害等ある。
- ・ 家屋以外にも、海水散布による家庭菜園が続けられるのか、漁業などの生業など多岐にわたる。
- ・ 地域の建設業者や専門団体との連携し、隣県団体として、支援内容・時期の調整を考えたい。

4. 閉会の挨拶 (INDS 阿部)

- ・ 現地では3.11の教訓を活かし地域主体の支援が展開されている。一方で未だ鎮圧に至らず“災害中”。
- ・ 現在、全国の支援を受付ける仕組みを準備中。情報を見ながら引続き、息の長い支援をお願いします。

以上